

# 新型デミオ誕生

## new DEMIO

新型デミオのキーワードは「人馬一体」。アクティブに運転を楽しむことができ、いつまでも乗っていたくなる、そしてもっと速くへ行きたくなるクルマを目指して開発された新世代のコンパクトカーだ。CX-5、アテンザ、アクセラで培ってきたスカイアクティブ・テクノロジーをさらに進化させ、日常の足として使いながらもその遊びを体感できる新型デミオ。スカイアクティブ-Dのテクノロジーを生かした1.5ℓクリーンディーゼルのハイブリッドに迫る燃費を実現し、吟味されたドライビングポジションは運転の楽しさを満喫させてくれるとともに安全性の向上にも貢献。躍動感にあふれるボディにたくさんの魅力を詰め込んで登場した新型デミオの魅力を解きあかしていこう。

**9.26 Debut**  
ガソリン車 2WD

ディーゼル車(2WD)は  
10月23日発売開始、  
4WDは  
12月発売開始予定

JCO8モード  
**30.0km/ℓ**  
SKYACTIV-D1.5 [6MT車]



発行所

日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
芝大門センタービル3階  
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

マツダ

新型デミオ

特集号



車の価値をボディサイズに比例させるのではなく、速くまで乗っていたくなる新世代コンパクトカー



### 人馬一体とは

マツダが目指してきた「人馬一体」の考え方は、スカイアクティブ以前から多くのマツダ車に反映されてきた。クルマを意のままに操りたいという欲求に少しでも近づくために、ドライバーの意志を正しくクルマに伝え、一方でクルマの動きなどを正確にドライバーへフィードバックすることで、安全かつ楽しいドライブを実現してきた。もちろん新型デミオもその考え方をしっかり受け継ぎ、街中でも高速道路でも楽しく快適に走ることができ、ワインディングのコーナーなどではより一体感を味わえるクルマとなっている。ボディ、エンジン、シャシー、シート、ペダルに至るまで吟味して「人馬一体」を実現した、最新のスカイアクティブ・テクノロジーを存分に満喫できるはずだ。



### ここが進化したスカイアクティブ-D1.5

マツダの内燃機関へのこだわりを示すとともに、小排気量クリーンディーゼルの世界を新たに切り開いたスカイアクティブ-D1.5。スカイアクティブ-D2.2で実現した低圧縮比、排ガスのクリーン化などに加え、可変ジオメトリー・シングルターボによる加速レスポンスの向上、新開発の段付きエッグシェイプピストンによる損失の低減などで優れた燃焼効率を実現。クリーンで低燃費ながらより気持ち良く走ることができる次世代ディーゼルエンジンとなっている。国内マーケットでもクリーンディーゼルは順調に普及しており、今年は年間10万台を超えるという予測もある。新型デミオの登場により、より多くの人にクリーンディーゼルの素晴らしさを体感できるようにすることは間違いなく、間違いなく。



クリーンディーゼルの魅力をさらに体験しやすく

マツダ デミオ 主要諸元表	ボディタイプ : ハッチバック							
	13C		13S / 13S L Package		XD / XD Touring / XD Touring L Package			
駆動方式	2WD (FF)	4WD	2WD (FF)	4WD	2WD (FF)	4WD	4WD	4WD
エンジンタイプ	SKYACTIV-G1.3				SKYACTIV-D1.5			
トランスミッション	6EC-AT	6EC-AT	5MT	6EC-AT	6EC-AT	6MT	6EC-AT	6EC-AT
全長 × 全幅 (mm)	4,060 × 1,695				4,060 × 1,695			
全高 (mm)	1,500	1,525	1,500	1,525	1,500	1,525	1,500	1,525
ホイールベース (mm)	2,570				2,570			
トレッド 前/後 (mm)	1,495 / 1,480				1,495 / 1,480			
室内寸法 (長 × 幅 × 高 mm)	1,805 × 1,445 × 1,210				1,805 × 1,445 × 1,210			
車両重量 (kg)	1,030	1,130	1,030	1,010	1,140	1,130	1,080	1,220
最低地上高 (mm)	145				145			
最小回転半径 (m)	4.7				4.7 (XD) / 4.9 (その他)			
乗車定員 (名)	5				5			
エンジン型式	P3-VPS 型				S5-DPTS 型 [S5-DPTR 型]			
種類	水冷直列 4 気筒 DOHC16 /バルブ				水冷直列 4 気筒 DOHC16 /バルブ直噴ターボ			
エンジン総排気量 (ℓ)	1,298				1,498			
最高出力 (kW<PS> / rpm)	68<92> / 6,000				77<105> / 4,000			
最大トルク (N・m<kgf・m> / rpm)	121<12.3> / 4,000				250<25.5> / 1,500-2,500 / 220<22.4> / 1,400-3,200 / 250<25.5> / 1,500-2,500			
JCO8 モード燃費 (km / ℓ)	24.6	*1	24.6	21.8	*1	26.4 [26.6]	30.0	*1
燃料タンク容量 (ℓ)	44				44 / 35 / 44			
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン				軽油			
ステアリング	ラック&ピニオン式				ラック&ピニオン式			
サスペンション 前/後	マクファーソンストラット式 / トーションビーム式				マクファーソンストラット式 / トーションビーム式			
ブレーキ 前/後	ベンチレーテッドディスク / リーディングトレーリング式ドラム				ベンチレーテッドディスク / リーディングトレーリング式ドラム			

\*1 : 4WD 車の数値は未定。\* [ ] は、XD / XD Touring / XD Touring L Package にメーカーオプション・E-LOOP 装着の場合。変更される場合がございますので、詳しくは販売店にお問い合わせください。



## 豊富なカラーバリエーション



## スタイリングとインテリア

「魂動」デザインを受け継ぎ、躍動感に満ちたスタイルに仕上げられた新型デミオ。今にも動き出しそうなクラウチング・フォルム、思い切ってエッジを効かせたボディパネル、鋭さを感じさせるフロントスタイルなど、プロトタイプである「跳 (HAZUMI)」のイメージが忠実に再現されている。

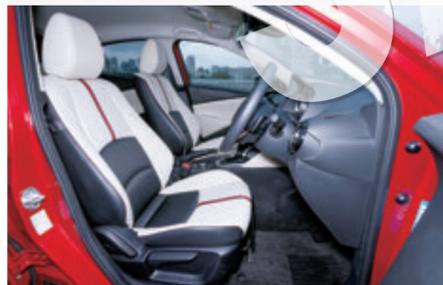
インテリアもワンランク上の質感を与えられ、シルバーで縁取られた単眼メーターを備えたインパネ、丸形のエア吹き出し口が配されたダッシュボード、ステッチの映える素材感に優れたシートなどがドライバーを迎えてくれる。ステアリングホイールやシフトレバーといったドライバーが常に触れている部分の素材も吟味されており、乗るたびにその質感の高さを実感できるはずだ。



存在感と生命力を表現したデザイン



デザインテーマは「魂動(こどう)-Soul of Motion」



ドライビングを楽しむコンパクト。さまざまな体格の人に対応



## 走りと燃費

新型デミオは1.5ℓクリーンディーゼルと1.3ℓガソリンエンジンを搭載。新開発の小排気量クリーンディーゼルエンジンは、高効率かつコンパクトなシングルターボとの組み合わせで最大トルクが22.4~25.5kg・mと2.5ℓ車並みのポテンシャルを持つ一方で、JC08モード燃費は30.0km/ℓと高い経済性を両立させている。アテンザ、アクセラ同様6速AT車に加えて6速MT車も用意され、シフトを楽しみながら最新クリーンディーゼルのパフォーマンスを満喫することができる。1.3ℓガソリンエンジンは高圧縮比化により軽快かつレスポンスのいい走りを楽しみながらJC08モード燃費は24.6km/ℓと、こちらも高い環境性能を備えている。ディーゼル、ガソリンともに4WD車が設定されているところも嬉しい。



SKYACTIV-D1.5L

## スカイアクティブ・ドライブセレクション

新型デミオの1.3ℓのAT車にはスイッチ操作ひとつでエンジンとトランスミッションの特性を変更できる「スカイアクティブ・ドライブセレクション」が備えられる。通常はスタンダードモードを選んでおけば過不足ない走りをこなせるが、スポーツモードを選ぶとアクセルの踏み込みに対してトルクが素早く立ち上がり、ミッションも最適のギア比を選んで鋭い加速を得られるようになる。混雑した高速道路の合流などで威力を発揮してくれる心強いアイテムだ。



## もっと遠くへ、走りたくなるコンパクトカー。

### 長距離ドライブのために開発したコンパクト

新型デミオの方向性を示すコンセプトのひとつに「ロングレンジドライブ」がある。短い距離を走るケースが多いとされてきたコンパクトカーだが、デミオはその概念を打ち破り、長距離ドライブをも楽しめるように基本性能を磨きあげてきた。操縦安定性や乗り心地を向上させ、ドライビングポジションも見直して運転の疲れを最小限に抑える配慮がなされている。さらに先進安全技術を惜しみなく盛り込んで街中から高速道路まで、あらゆるシチュエーションにおける安全性を確保。加えて低燃費による航続距離の長さ、同乗者とともに遠くまで安心して足を伸ばせる信頼性の高さも見逃せない。ロングドライブも苦にならないコンパクトカーに仕上げられている。



マツダ 商品本部 主査 土井 歩さん

コンパクトカーという概念を打ち破ることを目指して開発しました。シートやドライビングポジションにこだわり、ロングドライブでもより疲れにくく、安全で安心できるクルマに仕上がりました。また、クリーンディーゼルの魅力をより多くのドライバーに体験していただけるように、1.5ℓのスカイアクティブ-D1.5を搭載しました。これまで、大きなクルマにお乗りいただいた方には、これまでのクルマと同様の安心感を提供することができます。また運転経験の浅い方には、運転中の不安がなく、余裕を感じていただければと思います。これまでにないコンパクトカーにぜひ乗っていただきたい。

## 新世代ボディ、シャシー

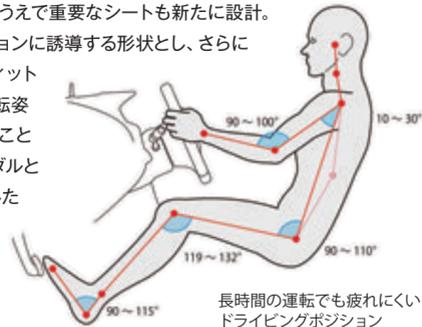
新型デミオのスカイアクティブ・ボディは車体骨格の強化、ウエルボンド接合の採用、高張力鋼板の採用増などにより、剛性は先代モデル比で22%も向上している。その高剛性ボディは操縦安定性の向上、乗り心地や静粛性の向上に貢献し、人馬一体の走りを実現する重要なファクターとなっている。さらに衝突時は衝撃を吸収するとともに生存空間の変形を最小限にとどめ、高い安全性を保ってくれる。また、サスペンション取り付け部の見直しなどで追従性と乗り心地を向上させ、ジオメトリーの見直し、ステアリングギア比のレシオ変更などシャシー回りも多くの部分を新設計。思った通りの走行ラインをたどれるリニアな特性は格段に向上しており、スポーティ走行も難しくこなす新型デミオのポテンシャルは予想以上だ。



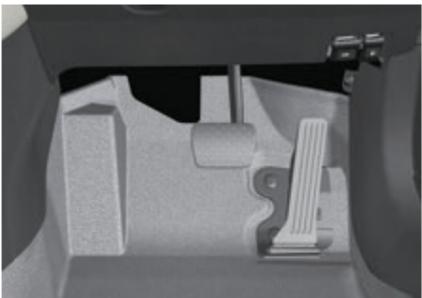
前モデルに対してホワイトボディで約7%の減量

## シート、ドライビングポジション、ペダル

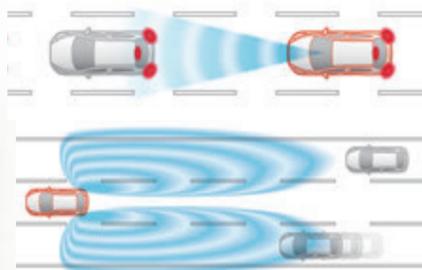
乗員の身体を支え、クルマとのコミュニケーションを図るうえで重要なシートも新たに設計。体幹を正しく支え、ドライバーを適切なドライビングポジションに誘導する形状とし、さらに振動吸収ウレタンの新採用で不快な振動をカット。常にフィット感を得られるシートに仕上げている。ごく自然に最適な運転姿勢を取ることができ、振動を抑えて疲れにくい環境を作ることによって安全性を高めている点も見逃せない。あわせて最適なペダルとはどうあるべきか、を細部まで追求し、ペダル位置を見直しただけでなく、ブレーキペダルのゴムパッドの幅や断面形状まで吟味。操作しやすく、踏み間違いのないペダルとしている。目立たない部分だが、隅々まで行き届いた配慮が快適なドライビングを実現しているわけだ。



ドライバーが自然に足を伸ばした位置にペダルをレイアウト



ペダルの配置も安全優先だ



追突事故の被害を軽減するSCBS(上)と後側方からの接近車両をドライバーに知らせるBSMのイメージ図

